

SEMANARIO DE SÃO PAULO

Num. 231

28-Mai-1926

聖 オ ブ ニュース

健實な植民借款團の設立をうながす

祖國衆議會の模様によれば彼の八十五萬圓は、確かに早魃救濟貨付金として、外務省所管の追加豫算に可決出資されてゐる。

田付大使が、アマゾンの旅より歸館後、何とか具体案が發表され早晚ノロ、ソロ兩線の旱魃救濟貸付資金請願團との交渉が開始されるとであらう。

一日も早く、其金が運用されて困つた殖民を幾分でも適宜に寛がせ度いとは、吾人も切に冀つて居る。

彼の金が、救濟貸付金として出資されたから、是非とも名儀通りに用立てさせねばならぬか、或は今一日の殖民環境に色づけられて、低利貸付資金の運用にあつべきか、理窟は何うでもつく、名目の未儀に囚はれて運用の施設を誤つていけない。

本省及當地駐在官憲の具体案が如何のものであるか、詳かにした上でなくては、現實の贊否は表にし難いも、吾人が再三已に説ける如く、該金の使用権は今處、何と云つても、ノロソロ兩線の救濟貸付金請願團にある、是れが監督権は駐在官憲にある。

兩者の意見投合する結果を豫想すれば、恐らく該金の使用法方を日本殖民の經濟的裏面の事状に疎い伯人銀行に委ねるともあるまいと案じられる。

若し該金が銀行一委ともならば殖民の爲めには融通のきかぬ、舊音機的の救濟法に化了せるとで鶴呑みする丈、救濟資金の味は殺して仕舞ふ様なものである。

此度の八十五萬圓は、殖民自身が充分にお膳立てし、唾液たっぷりでなん下し、十二分の消化作用を行ふ事である。

それを健全に遂げるには、何う

としても責任ある植民自身で借款團を組織し、適當な融通を乞かせる

程度迄遂行せねばならぬ。而して

中にせん衡委員をおき、管轄領事の監督の下に遂行すればいい、そ

の上世間の一面对、尙疑惑の白眼を以つて懸念されるゝ憂ありとの憂ありと

付資金請願團との交渉が開始されると、現下ノロ、ソロ植民の一ヶ月年の生産剩餘價値を可能的にならしむればいいのである。

八十五萬圓は、伯貨にして現下二千八百コントスそこそくである。

現下ノロ、ソロ植民の一年の生産剩餘價値にも不足な金額である、僅かな金員ではあるが、植民の効果の大小は、心ある爲政者にすれば、宜しく毎月一回の細大漏は熟慮せずとも明瞭な透算があるべきと信する。

健實なる植民借款團の設立を促要は該金をして、現下の植民經濟がす。

Redactor

do Semanario de São Paulo

Caixa, 58 — BAURU

Estado de São Paulo - BRAZIL

社主 編輯人 香山六郎

Foto Kowayama

Redactor

Otakar

Editor

ペスカの
今昔物語

松本高信

(二)

「あら、あら」
「こしや／＼してゐるわ」

てな調子で瞬く間にバケツ半分も

の大漁

「お母さん廿錢おくれ僕は油買

ひに行つて來るよ」

「何だネ、子供のよう、おや

／＼三人共ビショ濡れになつて」

と笑ひながら、でもバケツを覗いて

「オヤ、澤山とつたこと、よく

お前達にとられる魚がゐた事」

と御託宣、

あゝ、あの晩の天鵝羅はうまか

つたつけ、若い俺達には金の問題

も、位置も名譽もパンの問題もなく、歡喜は燃えてたゞ天鵝羅を食つたんだつた。

それから間もなく俺達はラジ

ルへ來てもう七年になる。

幸か、不幸か、俺にはベスカの

ペの字もする暇もなかつた。

晨に星を戴いて出で、夕に月を踏んで歸る労働者の俺だ、

二番半のエンシャアダにかかりついてグタ／＼に疲れてそれどころではない。

一人の子供が二人になり三人になり、長男が七つになつて、親爺の俺の口脣にチョボリ白いやつが混つて來た。

「何をしてゐなさるの」と女房が云ふから

「白髪をぬいてゐるんさあ」と云ふと

笑ひ出しやがつた。

實に不都合な奴は女である、年寄りに見られるのは我ながら辛いからこの俺が苦心惨憺退治して居るところだに

「抜いたうてすぐ生れるから駄目だわ」とねかしおる。

その俺がついこの間町へ出かけようとしたら、「父さんこれを」と長男が白い紙を出したから披いてみると

「お母さん廿錢おくれ僕は油買ひに行つて來るよ」

（一）

と書いてある、昨宵あれ程頼まれた健忘の俺の癖をもう子供まで見ぬいてゐるんだ、油斷のならぬ世の中だ。

汗をしほつた綿なんだけれど、

「仕方がないよ」と岡島さんに

九ミルレースで賣つて、借金を拂つたり米を買つたり、シガアルを

おごつたりして、糸一ミル釣針二百レースを紙に包んで二時頃家へ歸つた。

「父さん綿が賣れて？」

飛び出した僕がすぐ云ふ。

お月さんも泣きやれ

豌豆なよ／＼

白い花暮れ

脊戸にお高が

唄つてる

民謡

汀打浪

豌豆なよ／＼

白い花暮れ

脊戸にお高が

唄つてる

俳句

汀打浪

豌豆なよ／＼

白い花暮れ

脊戸にお高が

唄つてる

うそ寒

うそ寒や屋根うらを吹く雨の風

うそ寒し雨にふて寐の毛布出て

直ぐ消る汽笛の湯氣や暮寒し

芋汁や濡れて着きたるほたの宿

ほたの火に黒奴おどるや足拍子

館旅州九

地番三街ナバカラソルウバ
番七一二

助龟良高主館

宿川小

ロイエリセンコ市聖
番六拾街ドタルン
六七四四ルラントンセ電話

館主

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

宿

御

川

小

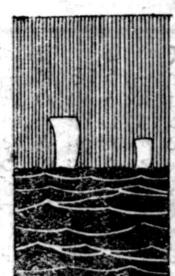
宿

御

川

小

宿



祖國便り

六十歳の大學生

帝大文科の聽講生
伊藤房太郎氏

淺草小學校長の伊藤房太郎（六一）氏は今度教職を退くと同時に帝大文科の聽講生としてのふみで教へた身をけふは教はる身と早めりして老の身に鞭つととなつた

「畢生の事業として國民訓を書かうと思つて居ますが、老年餘す所幾何もない前から辭を願つてねましところ漸く許可にならましたので、八十の手習ひを決心して著述に從ふ一方佛教を典研究の爲め帝大に通ふつもりです」

伊藤校長はその決心の程を示してゐる。

氏は上總木更津の産、青山師範第一回の卒業生で明治廿一年下谷小學校を振り出しに訓導となり、卅年には東京府視聴、京都府師範

と伊藤校長はその決心の程を示してゐる。

元陸軍主計三瓶俊治氏が發き立つて遂に不起訴か

は遂に不起訴か

づかしいので新規まさなほし元氣

もりです」と語つた

「畢生の事業として國民訓を書かうと思つて居ますが、老年餘す所幾何もない前から辭を願つてねましところ漸く許可にならましたので、八十の手習ひを決心して著述に從ふ一方佛教を典研究の爲め帝大に通ふつもりです」

伊藤校長はその決心の程を示してゐる。

氏は上總木更津の産、青山師範

と伊藤校長はその決心の程を示してゐる。

元陸軍主計三瓶俊治氏が發き立つて遂に不起訴か

は遂に不起訴か

づかしいので新規まさなほし元氣

もりです」と語つた

「畢生の事業として國民訓を書かうと思つて居ますが、老年餘す所幾何もない前から辭を願つてねましところ漸く許可にならましたので、八十の手習ひを決心して著述に從ふ一方佛教を典研究の爲め帝大に通ふつもりです」

伊藤校長はその決心の程を示してゐる。

氏は上總木更津の産、青山師範

と伊藤校長はその決心の程を示してゐる。

元陸軍主計三瓶俊治氏が發き立つて遂に不起訴か

は遂に不起訴か

づかしいので新規まさなほし元氣

もりです」と語つた

「畢生の事業として國民訓を書かうと思つて居ますが、老年餘す所幾何もない前から辭を願つてねましところ漸く許可にならましたので、八十の手習ひを決心して著述に從ふ一方佛教を典研究の爲め帝大に通ふつもりです」

伊藤校長はその決心の程を示してゐる。

氏は上總木更津の産、青山師範

と伊藤校長はその決心の程を示してゐる。

元陸軍主計三瓶俊治氏が發き立つて遂に不起訴か

は遂に不起訴か

づかしいので新規まさなほし元氣

もりです」と語つた

機密費問題

は遂に不起訴か

日本へ

留學する四博士

南米へ花よめ行脚

の島貫志賀子さん

小田原の別邸で

大島大將逝く

日本旅館

カフエ精選所

カフエ精選所

カフエ精選所

カフエ精選所

カフエ精選所

カフエ精選所

カフエ精選所

良品廉價は弊店の信條

市價を無視した他に真似の出来ない大特價を以て提供致します
何卒御下命の程願上ます

必需食料品値段表

品	品	一俵	47\$000
米	上等品	一俵	40\$
白全	最上品	一俵	43\$
アリニヤデトリーグ	上等品	一包	1\$1
茶マーテ	最上品	一キロ	3\$
パカリヤオ	(リオグランデ製)	一箱	37\$
カルネセツカ	油糖	一俵	8 \$
石砂	フィルトライド	一俵	72\$5
全全	レンドンド	一俵	51\$5
全全	マスカーボ	一俵	1\$
全全	1キロ入	一俵	1\$8
全全	2 "	一俵	2\$5
全全	4 "	一俵	4\$5
全全	10 "	一俵	12\$
全全	30 "	一俵	21\$
全全	60 "	一俵	8\$
パンニヤ	2キロ入	一俵	4\$2
マカロン	3キロ入	一俵	2\$6
全	最上品	一キロ	8\$8
洗濯石鹼	27片入	一箱	\$9
マツチ	ビンガ	一包	8\$
卷煙草	(イグアペ製)	十包	7\$5

(五月十八日附相場)
洋酒、金物、小間物等の値段は追々御披露致します。

◎日本品は何品にても取扱へて
有ります。

瀬木商店

RUA BAPTISTA 1-38

Baurú

日本御菓子製造所

御進物用宴會用

執行傳吉

吉

澤尾旅館

澤尾機七

帶によくない、結實期に雨が多かつたので禍され、果が腐つて半作

つたので穀物が少い、その安い値が莫迦々々しく安い、その安い値が

昨今、バウル市では一アローバ七ミル五百と下落した頻死の状態

だ。生産物が少ない上にこの捨値

棉作者は一般に泣きも出來ぬ悲しさである。

▼穀 昨年十月播きの稻がお馴染の旱魃に見舞はれたので、生産

高は一帯に減少、値は後二十四五

ミル台の處だろうと、農家には豫

期された穀が廿ミル台から、昨今

極上の處で十七ミル台になつて居る。棉のアローバ七ミル五百に比

較すれば、畠賃位は出ようと云ふ處だ。が穀持つ農家に云つては

今後の高値の打止り氣味

で引返し値を出しさうもないの

ボック、賣急ぎの態である、農家に云つては、昨年來の痛手がなれよ

や、秋晴れの冷い氣にもなれようが、偽持つ財布は辛い。

▼豆 半期前迄は田舎町で俵四

十ミル、聖市で六十ミルなんて途

方もない懸念を保ら、チヨックラ豆持ち農家を喜ばせたも、うたか

ル市の豆値は、一昨日からガラ

タルの十八ミル台、小賣がリ

トル三百レースである。だが豆の値はお承知通り反動も速い、今

近々其の測量に着手するとなる

の處弱氣だと悲觀しちゃいかん。

てゐる。

現今一様に製つた不景氣風に悩

んで居る由。

▼の前途

北西線リス驛在住邦人一切の郵便取扱局は、昨年迄餘り整頓を來たし

れず、兎角の評判あつたが、現任

高橋善之助氏になつてから、着々

郵便物の取扱ひに整頓を來たし

れず、在驛邦人皆陸では大喜びして

の選舉を行ふとなつてゐる、

時代の色彩は、在伯邦人の結束

を促してゐる、集團せねば強くな

れぬ、力が出ぬ、斯くて、一昨年

迄は、僅か四五家族の日本殖民者

が歴然たるに、リヌス青年の「共

謀」文書は、體裁と云ひ内容と云

に、淋しく日が暮れた、シャーベー

に左の大脛骨を折り、廿五日朝

に、其の足が負傷である、青

みに左の大脛骨を折り、廿五日朝

のグランタンも驛となり、電氣の

が歴然たるに、リヌス青年の「共

謀」文書は、體裁と云ひ内容と云

に、淋しく日が暮れた、シャーベー

に、淋しく日が暮



女忠臣藏

(卅五)

見れば見るほど恰利さが目許を彩る、お菊は膽氣が勝り、うめヶ枝は恰利が優れた、二女共斯う云ふ時には、無くては協はぬ道具であつた。

大石内蔵助と江戸在住の同志との間には、深い約束が交してあつて、吉良殿の間には、深い約束が交してあつて推參して、御首級を乞ひ申さう生きてある者共申し合せ、吉良殿

あらば、畜生にも劣る所業として恥ぢた、赤穂開城の砌、江戸から急派した安兵衛等は、内蔵助と堅い約束を結んだ、亡君大恩の下に生きてある者共申し合せ、吉良殿である、御家名長く斷絶して、通

とした、武士にして約束に背く事處が内蔵助は爾うで無かつた、上野介殿の首級を得て、亡君修羅の姿執を散じ奉る、それは最後の一晴らし奉らうと云ふに決した、

コノヨコモジハ、キ
リトリテ、チガノ
オモテニハルニヨイ
デス

▲ 郷 里 送 金 ▼

御送金の伯貢は當店にて受取りたる當日
爲替相場にて日本本金に換算可致候。

於て負擔いたし即ち全無手數料にて御郷里の
書留料其他總て當店にて
受取人へ送り届け申上候。

金子はコンバロ、郵便爲替又銀行小切手にて當店へ御送り被下度猶ほ横濱正金銀行勘定と
して當店は金子はコンバロ、郵便爲替又銀行小切手にて當店へ御送り被下度猶ほ横濱正金銀行勘定と